

# 令和7年度 小松原地区（大王小・小松原中） 学校運営協議会 実施報告

## 1 学校の概要

学校名	都城市立大王小学校 都城市立小松原中学校		校長名	上瀨 清美 鈴木 一成	
学級数	(小)26 (中)11	児童生徒数	(小)513名 (中)261名	職員数	(小)35名 (中)33名
教育目標	(小)知・徳・体・勤の調和のとれた人間性豊かで実践力のある児童の育成 (中)心豊かで、知性に富み、たくましい体をもった、実践力のある生徒の育成				

## 2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員(計14名)・事務局(計10名)

学校運営協議会委員	No.	所属名(役職)	氏名	備考	事務局	役職		氏名
	1	小松原地区自公連会長	平嶋 弘平	小学校部会会長		小学校	校長	上瀨 清美
	2	都城市議会議員	廣瀬 功三	小学校部会			教頭	丸目 寛之
	3	民生委員・児童委員協議会会長	平川 道子	小学校部会			教務主任	沖田 頼次郎
	4	主任児童委員	福留 浪子	小学校部会			生徒指導主事	金丸 喜紀
	5	ボランティア会長	川路 豊子	小学校部会			事務主査	徳留 洋志
	6	大王小学校PTA会長	竹下 道彰	小学校部会			校長	鈴木 一成
	7	よみきかせボランティア	川畑 美里	小学校部会		中学校	教頭	宮田 守
	8	小松原中学校校長	鈴木 一成	小学校部会			教務主任	加藤 慎一
	9	小松原地区自公連副会長	田村 真樹	中学校部会会長			生徒指導主事	浦川 貢史
	10	都城市議会議員	廣瀬 功三	中学校部会			事務主任主事	東 友里
	11	主任児童委員	本田 隆志	中学校部会				
	12	小松原地区まちづくり協議会事務局長	橋口 浩太郎	中学校部会				
	13	大王小学校校長	上瀨 清美	中学校部会				
	14	小松原中学校PTA会長	本田 耕三	中学校部会				

(2) 組織編制



### 3 年間の活動計画

月 日	主な活動及び内容
5月19日	第78回小松原中体育大会参観・小優勝旗授与
5月30日	小中合同第1回協議会 ・委嘱状交付 ・協議会の趣旨説明 ・校長の学校経営ビジョンの説明 ・年間活動計画
6月1・2日	職場体験(中3) ・体験受け入れ事業所の選定
6月18日	小松原地区公民館ボランティア花植え(中3)
7月2日	都城市学校運営協議会 委員研修会
8月28日	中学校第2回協議会 ・授業参観 ・学校の現状について ・学校評価基本方針 ・部会別協議
9月3日	小学校第2回協議会 ・授業参観 ・学校の取組について ・協議会の取組について ・学校評価連絡
9月24～ 26日	家庭科ミシンの使い方指導補助(小5)
10月10日	英語暗唱弁論&合唱コンクール&吹奏楽部定期演奏会参観
10月26日	小学校運動会参観、佯踊り発表協力
10月31日	小中合同第3回協議会 ・授業参観 ・学校評価アンケートについて
11月7日	小松原地区祭り会場設営(中3)
11月8・9日	小松原地区祭り参加(小学・中学) (小学・中学)作品展示 (小学)佯踊り披露(小5) (中学)・こまボラ隊体験コーナー運営・販売コーナー支援、放送委員運営協力 吹奏楽部演奏参加、PTA 出店協力
11月27・28 日	職場体験(中2) ・体験受け入れ事業所の選定、新規事業所の開拓
12月2～6日	オープンスクール参観(中学)
1月13日	小学校第4回協議会 ・授業参観 ・学校関係者評価書(挨拶指導、スマホ取扱、次年度地区祭りほか)
1月24日	中学校第4回協議会 ・3年面接練習の面接官としての支援 ・学校評価アンケートの結果分析と考察
2月26日	小中合同第5回協議会 ・学校関係者評価報告 ・本年度の実践とその反省及び次年度に向けての取組

### 4 今年度実施した「熟議」のテーマ

- 8月中学部会:3年生の面接練習での、委員による外部面接官について
- 8月中学部会:2学年職場体験学習における新規事業所の開拓について
- 8月中学部会:地域貢献と生徒ボランティア(地区まつり)について
- 8月小中合同、9月小学部会:挨拶指導について

### 5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

#### 《大王小学校》

##### (I) 学校支援活動

- 民生委員・児童委員との情報交換会(定例会および全体会)  
民生委員・児童委員との情報交換会を月1回実施した。月末に実施し民生委員・児童委員の定例会で共有してもらうようにした。夏期休業中には、児童がいる地区の民生委員・児童委員に来校してもらい、全職員との情報交換会を実施、情報共有をした。
- あいさつ指導  
小学生の挨拶に元気がないことについての協議を受け、校内での指導重点化および小中合同あいさつ運動の充実を図った。委員からは、以前よりも元気なあいさつが聞かれるようになったとの評価をいただいた。また、学校だけでなく、地域や保護者など大人の率先垂範の重要性も取り上げられ、今後、学校と地域・家庭が一緒にあいさつの向上に取り組むことを確認した。

○ 読み聞かせボランティア

平成13年度に始まった大王小学校の読み聞かせボランティア「ひだまりの会」と紙芝居「まねきねこの会」の協力により、今年度も読み聞かせを実施した。本に親しむきっかけとなる取組として今後も継続する。



【読み聞かせボランティア】

(2) 教育課程の改善(カリキュラム・マネジメント)

○ 俵踊り

地域の民俗芸能である「俵踊り」は、本校の伝統として取り組んでいる。昨年度から運動会での披露を前提とし、5年生の表現活動として位置づけ、地域の保存会の全面協力により、練習時から運動会当日の発表まで支援をしていただいた。本年度は、小松原地区祭りでの披露も行き、保存会との共演をすることができた。



【俵踊りの様子】

(3) 地域貢献活動

○ クリーン大作戦

本校では、毎年学年ごとに「クリーン大作戦」を行っている。全学年で校内の落ち葉清掃を中心に取り組んだ。「クリーン大作戦」に限らず、5・6年生が朝のボランティア活動に積極的に取り組んでおり、一年間継続した。

○ 高齢者への年賀状

小松原地区社会福祉協議会の依頼により、6年生児童が地域の高齢者の方々に年賀状を書き届けてもらった。一人暮らしや身寄りのないお年寄り、子どもたちと接することの少ないお年寄りへの年賀状で喜んでもらえたようである。



【クリーン大作戦】

《小松原中学校》

(1) 学校支援活動

○ 環境安全支援部会の取組:「あいさつ運動・交通安全立番指導の実施」

学校運営協議会とPTAとのつながりにおいて、PTAが主体となり、毎月「0」のつく日に地区ごとの登校指導を実施。立番日誌を通じた情報共有により、学校での生徒指導に迅速に反映させる体制を構築している。一方で、登校時間の変動や保護者の勤務状況の変化により、一部地区での継続が困難という課題も浮き彫りとなった。今後は「生徒の見守り」と「学校の働き方改革」、そして「地域の持続可能な協力体制」のバランスを考慮した再設計が求められている。

○ 学校行事への参画と支援

体育大会や文化系行事(英語暗唱・合唱・吹奏楽)の運営に対し、委員から多角的な助言を得ることで、地域・保護者・生徒の三者が一体となった行事運営へと改善を図った。特に3年生の面接練習では、委員が外部面接官を務めることで、校内練習では得られない緊張感のある場を創出。生徒が地域の支えを再認識すると同時に、委員が生徒の成長や学校の指導体制を深く理解する貴重な「双方向の教育機会」となった。

コロナ禍以前の活動が復活できた。生徒も協議会委員の皆様にも好評であった。今後も効果的に継続させるために、学校側と協議会委員の皆様との連携の在り方を検討したい。



【3年面接練習】

(2) 教育課程の改善(カリキュラム・マネジメント)

○ 教育活動支援部会の取組:「職場体験活動への支援」

キャリア教育として職場体験学習を行っている。生徒が各事業所に向き、実際に仕事を直接体験したり、見学をしたり、業務の助手を行うなど、実体験を通して自分の職業観を養い、将来の夢や目標立てに役立つ活動である。この学びの趣旨を理解したうえで、生徒を引き受けてもらえる事業所の選定や、生徒の希望職種に応じた新規の事業所の開拓に教育活動支援部会に協力していただいた。生徒のニーズに応じた、校区を中心とした事業所の開拓は容易ではなく、大変助かっている。本年度は3学年生徒と2学年生徒の2回の職場体験を異なる時期に実施したため、事業所が増えたことは有り難かった。



【2年 職場体験】

### (3) 地域貢献活動

- 環境安全支援部会の取組：「小松原地区公民館の花植えボランティア」  
6月に3年生が、小松原地区公民館と地区体育館周辺の花壇の、花植えのボランティア活動をさせていただいた。環境安全支援部会と小松原地区まちづくり協議会との連携における活動であり、花の苗の準備や苗の植え方の技術指導をしてもらうことができた。生徒が地区の環境美化整備の一端を担う活動となった。地区公民館と地区体育館の立替工事に伴い、昨年度まで11月に行っていた、1年生による花植ボランティアはできなくなった。



【公民館植栽ボランティア】

- 小松原地区祭りへの主体的な参画  
本年度の小松原地区祭りは、公民館等の建て替えに伴い本校をメイン会場として開催された。実施にあたっては、学校運営協議会委員や地域まちづくり協議会との連携により、生徒が企画段階から参画する貴重な機会を得ることができた。



【地区祭り体験コーナー】

準備段階では、ボランティア組織「こまボラ」のスタッフを中心に打ち合わせを重ね、地域に配布する広報チラシの作成や関連配布物の提案を行った。前々日の会場設営には3年生全員が参加した。

体育館内へのシート敷設やパネルの組み立て、屋外のテント設営など、地域の方々と協力しながら手際よく作業を進めた。

祭り当日は、吹奏楽部によるオープニング演奏や放送委員による司会進行、美術・書道作品の展示に加え、PTAによる飲料販売も行われた。生徒ボランティアは各出店の準備や販売を補助したほか、特設の「こまボラブース」ではフードドライブやアクリルたわしの販売を実施した。さらに射的やボウリング等の体験コーナーでは、生徒自らが立案したゲームを運営した。地域行事の計画から運営まで一貫して主体的に関わる経験は、生徒にとって大きな自信となった。本活動を通じて、単なる「参加者」から「運営の担い手」へとステップアップを遂げ、地域社会への貢献意識と愛着が劇的に向上する成果を得られた。

## 6 学校運営協議会の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 小中合同会議を年3回定例化したことで、義務教育9年間を見据えた情報共有と共同協議が可能となった。授業参観や行事参加を通じ、学校の現状と課題を地域が「自分事」として捉える土壌が整った。
- 委員の専門性や人的ネットワークを学校支援(面接練習、職場体験等)に直接結びつけることで、教育内容の充実と地域交流の活性化を同時に実現した。
- 生徒の地域活動への参画やボランティア参加など、地域社会との交流を図ることができた。
- 連絡ツール(sigfy)への登録を推進したが、高齢の地域人材や関係機関において登録・操作に難航するケースが見られる。ICTを活用しつつ、誰もが取り残されない情報共有体制の構築が必要である。
- 地区祭りの合同開催や伝統芸能の継承など、地域からの要望は多岐にわたる。教育課程との整合性や教職員の負担を考慮し、持続可能な協力の在り方を精査する必要がある。
- 3つの支援部会を2つに組織再編し、地域学校協働本部としての機能を明確化したが、今後も自律的に活動を継続するためには支援部会ごとの運営に工夫が必要である。

## 7 次年度の方向性

- 地区公民館の建て替えに伴う行事への影響を「連携の再構築」の好機と捉え、工事期間中も途切れることのない発展的な協力体制を協議する。早期の年間計画共有を徹底し、予測可能な運営を目指す。
- 「学校の応援団」としての側面を維持しつつ、学校と地域を結ぶ「ハブ」としての組織機能を高めさせたい。双方向のニーズ(学校がしてほしいこと・地域ができること)を精度高くマッチングさせたい。
- 学校側と地域側双方のニーズ、思いや考えを共有するため、既存の会議を最大限生かしながら、学校と地域が思いを共有する熟議の場を充実させたい。積極的な情報収集と情報提供に引き続き努めていく。